

学級経営 はじめの一歩

～初任者のための学級づくりのヒント～



この画像はAIによって生成されたものです。

「ともにあゆもう」

徳島県立総合教育センター

平成29年3月
(令和8年1月改訂)

と

ともに築く 楽しさ実感 学級集団

学級集団づくり I ····· P 2

も

モラルが育つ みんなでつくる クラスのルール

学級集団づくり II ルールづくり ····· P 3

に

にじみでる 心の声を くみとろう

子供理解 ····· P 4

あ

安心して かかえこまことに ほう・れん・そう

問題行動への対応 ····· P 5

ゆ

ゆったりと 学べる環境 居場所づくり

教室環境づくり ····· P 6

も

もっとある 子供のよさを 引きだそう

自己肯定感 ····· P 7

う

受け止めて 家庭の思い 地域の願い

家庭・地域との連携 ····· P 8

学級経営 豆知識

····· P 9

はじめに

学級経営への期待と不安は誰にもあります。人を育て、集団を育てる教員の仕事は、決して楽しいことばかりではありません。学級経営に困ったとき、悩んだときに、この冊子「学級経営はじめの一歩」を役立ててください。

この冊子では、合い言葉「ともにあゆもう」に基づいて、学級経営の様々な方法や留意点を紹介しています。「子供とともに、保護者とともに、仲間の先生方とともに、そして同じ初任者となった先生方とともに、一歩一歩着実にあゆんでいこう」という願いを込めました。

個性と国際性に富み、夢と志あふれる子供たちの育成のために、ともにがんばっていきましょう。

と

ともに築く 楽しさ実感 学級集団

学級集団が育つ中で、一人一人の子供たちも大きく成長します。その学級集団づくりの第一歩は、子供たちとともに「学級（ホームルーム）の目標」をつくることです。そして、その目標の実現に向けて力を合わせます。

大切にしたいこと

- 学級目標や子供たちの願いを実現できるように学級（ホームルーム）活動の時間を活性化させましょう。
- いじめは絶対に許さないという強い姿勢で「いじめのない学級集団」に育てましょう。

実践のヒント

1 学級目標を作成し共有化を図ろう

- 担任と子供たちが願いを出し合い、学級目標を作成する。
- 作成した目標は、学級懇談や学級通信等で伝え、保護者の協力を得るように努める。
- 作成した目標は1年間掲示し、定期的に振り返り、実現できるように話し合う。

2 当番活動を通して責任感を育てよう

- 学級生活を維持していく上で必要不可欠な活動であることを自覚させ、どのような当番になんでも学級のために活動できるように指導する。
- ※日直や清掃・給食当番等の当番活動は、輪番制を基本として進めましょう。

3 係活動を通して自己有用感を高めよう

- みんなで話し合って、係とその内容を決める。
- 活動する中で、係が学級のために役立っているという実感をもつことができるように支援する。
- ※係活動は、豊かな学級生活を創造するため、子供たちの創意工夫により展開される活動です。生き物係や新聞係、イベント係等、一人一役の活躍の場を設定しましょう。

4 学級（ホームルーム）活動を活性化しよう

学級（ホームルーム）活動は、生活をよりよくするための課題を見いだし、解決するため話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、学級での話合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して、実践したりする時間である。生活上の諸問題を発見し、提案できる力が育つように指導する。

- (例) ①議題の提案→議題箱や議題掲示コーナーを用意する。
- ②計画委員会の実施（議題の選定や話合いの計画、提案理由の確認）
 - 司会グループ・議題提案者とともに担任が参加し、指導・助言する。
- ③話合いによる合意形成→「折り合いを付ける」ための学びができるように支援する。
 - ※決定されなかった意見も、別の機会に実施したり、形を変えて実施したりする等、その生かし方を子供たちで考えられるように支援しましょう。
- ④合意形成したことの実践→反対した子供も一緒に協力できるように声かけをする。
- ⑤振り返り→①～④の一連の実践を振り返り、次の実践につながるように助言する。

ワンポイントアドバイス

「折り合いを付ける」ということは、少数意見も大切にすることです。それぞれの意見を合わせたり、いくつかの意見のよいところを取り入れて新しい考えを創り出したりする中で、互いの信頼関係や仲間意識が生まれます。

も モラルが育つ みんなでつくる クラスのルール

子供たちが安心して学級生活を送るためにはルールが必要です。そのルールは教師から提示するだけでなく、子供たちとともにつくることでルールを守る自覚が芽生え、モラルが育ちます。

大切にしたいこと

- 他者の生命や人権に関わること等「人として許されないことは許さない」とはっきりと子供たちに伝えましょう。
- ルールづくりでは、担任としての考え方をしっかりともち、子供たちに指導や支援を行いながら進めましょう。最初が肝心です。
- 決めたルールだけでなく、学習規律や日常生活上のマナーに関わることは、必要に応じて教師がきちんと指導することが大切です。

実践のヒント

1 教師と子供で話し合ってルールをつくろう

- 学級として守るべきことを、生活ルールと授業ルールに分けてつくる。
- なぜ、そのルールが必要なのかを子供たちとともにしっかりと話し合う。
- 子供たちが学級生活の中で諸問題を発見したときは、学級（ホームルーム）活動の時間等に子供たちと話し合って解決方法や新たなルールを考える。

2 粘り強く取り組み、確実に実行させよう

- 決めたルールが定着するまでは、朝や帰りの会等で守れているか確認する。
※みんなで決定したことについては、必ず実行させ、責任感をもたせ、振り返りを継続して行いましょう。
- 一人一人の様子をしっかりと観察する。
※特別な支援が必要な子供については、決めたルールを実行することが難しい場合があります。その子供に合ったルールが必要であることを他の子供が理解できるように丁寧に説明しましょう。
- 家庭でも実行すべきことについては、協力を依頼する。
※学級（学年）通信、懇談等を活用します。保護者の理解が得られるように丁寧にルールとその意図を示し、保護者とともに子供を励ましましょう。

3 形骸化を防ぐため、実態に応じて見直そう

- 守られていないルールは、そのままでよいか、変えるべきか、子供たちとともに考える。
※必要なときには、子供たちとともにルールをつくり直しましょう。
- ルールの変更がなくても内容の確認を定期的に行う。
※同僚と連携して、子供たちの生活の様子を把握しましょう。

ワンポイントアドバイス

生命や人権等に関わる重大な事態につながる可能性があるような場合は、教師が毅然とした態度で指導し、子供たちがすぐ改善できるようにしましょう。

に

にじみでる 心の声を くみとろう

自分の思いをうまく伝えることができずに、黙ってしまう子供がいます。

ほんの一瞬でも「あれ？何かいつもと違うな。」と気になったときには、一声かけてみましょう。「先生は自分のことを見てくれます。」という安心感が子供の中に生まれます。

大切にしたいこと

- 常に一人一人の子供の姿を見つめ、同僚と積極的に情報交換を行う等、子供の実態を把握する努力をしましょう。
- 子供の表情や行動に違和感を感じたら、まずは声をかけ、本人と話をしたり、同僚に相談したりしましょう。
- 教師が子供の思いをしっかり受け止め、心をつなぐことで問題行動の未然防止に努めましょう。

実践のヒント

1 子供たちの姿を見つめよう

いつもと違う様子に気付くためには、普段の様子を把握しておくことが大切である。

□朝の出席確認で一人一人の表情を見る。

※健康観察とともに、服装の乱れ、清潔等にも気を配りましょう。

□日記や宿題等の提出物を、毎日確認する。

※提出の有無、気になる記述、文字の乱れ等の変化に注意しましょう。

□毎日、全ての子供と一言は言葉を交わすことを目標にする。

□「こんなことをがんばっている。」「こんなことで困っていた。」「こんなことがあった。」等、子供たちの様子を同僚と共有する。

※養護教諭や部活動の顧問等、教室以外の子供たちの姿を知っている人とも積極的に情報交換をしましょう。

□学校の定期的な生活アンケート等を活用する。

2 もしかして…と思ったら！

対応を先に延ばすほど、解決は困難になる。今できることを行動に移す。

□いつもと様子が違うと感じたら、必ず声をかける。

※「少し元気がないね。何か気になることがあるの？」

□子供の様子で気になることがあったとき、学年、学校で情報を共有する。

□子供の様子がいつもと違ったら、保護者に一言連絡をする。

※「今日、少し元気がなかったようで、気になりました。家庭での様子はいかがですか。」

ワンポイントアドバイス

今日一日の子供たちの姿を振り返ったときに、すぐには具体的に思い出せない子がいませんか。おとなしく、自分からは積極的に訴えてくることが少ない子供たちです。明日は、意識してそのような子供たちに目を向けてみましょう。

あ

安心して かかえこまことに ほう・れん・そ

学級担任として最も配慮すべきことは、子供たちが安全・安心な日常を送る環境をつくることです。日頃から、子供理解と確かな学級集団づくりを心掛け、トラブルや問題行動の未然防止に努めることが第一です。しかし、どんなに気を付けても、子供たちのトラブルや問題行動は起きことがあります。大事なことは、初期対応です。

大切にしたいこと

- 問題行動への対応はチームで行い、管理職や学年主任、同僚への“ほう・れん・そ”（報告・連絡・相談）”を必ず行いましょう。
- 指導がうまくいかないとき、保護者とのやり取りに困ったとき等、どんな些細なことでも、かかえこまことに身近にいる同僚や学年主任、管理職に助けを求めましょう。

実践のヒント

1 生徒指導の「さ・し・す・せ・そ」！

子供たちのトラブルや問題行動があったときは、「最悪の事態を想定し、慎重に、素早く、誠意をもって、組織を挙げて」対応する。

2 初期対応を大切にしよう

- 早期発見、早期対応を心掛ける。
※冷静に、子供たちの安全確認・安全確保を第一に考えましょう。
- 学年主任、管理職に報告・連絡・相談を行い、指示を仰いで、保護者へ適切に連絡をする。
- 当事者への対応を進めるとともに、周囲の子供への配慮を忘れない。
- 事実確認、指導は複数の教師で行い、記録を残す。
- 教師間で情報共有及び今後の対応について共通理解を図る。
※必要に応じて、各種関係機関との連携を図りましょう。

3 子供の成長を考えよう

- 子供の問題行動等には、必ず背景がある。表面に出てきている言動だけを見るのではなく、原因は何なのかを見極める。
- これから子供の成長につながるような解決方法を探し、助言していく。
- 子供や保護者の思いをしっかりと受容して対応する。

ワンポイントアドバイス

子供の話を聞くときの教師の座る位置にも配慮が必要です。真正面に座ると、子供と対立や緊張を生みやすくなるので、子供の横に寄り添い、座って聞くことを心掛けましょう。



この画像はAIによって生成されたものです。



ゆ ゆったりと 学べる環境 居場所づくり

子どもたちにとって、学校は一日の大半を過ごす場所です。学校が子どもたちにとって、学びやすく、居心地のいい場所になるために、物理的にも、精神的にも安心して過ごすことができる教室環境をつくっていきましょう。

大切にしたいこと

- 清潔で整理整頓された教室は、気持ちが落ち着き、快適に過ごせるということを子どもたちに実感させ、自分たちの手で、環境を整える意識を育てましょう。
- 教室環境を確認することを習慣とし、教室環境の乱れがある場合は、子どもたちの様子を注意深く見守り、指導に当たりましょう。

実践のヒント

1 子供たちに呼びかけ、習慣化しよう

- 机、いすの並び方を整える。机やロッカーの中を整理整頓する。
- ゴミを見付けたらすぐに拾う、使った物を元に戻す等の習慣を身に付ける。
- プリントやワークシート、1人1台端末等の管理の仕方を身に付ける。
※保護者に渡すもの、ファイルに綴るもの、提出するもの等の取扱いを確認しましょう。
- 共有スペースを整える。
※学級文庫や資料を整理し、個人の荷物は自分のロッカーに整理するようにさせましょう。
- 机や黒板の落書きはしない、させない、放置しない。
- 授業ごとに黒板をきれいに消す。黒板消しもきれいにする。
- 日々の清掃活動で、すみずみまで時間いっぱいきれいにする。
※清掃分担箇所が複数ある場合は、それぞれの分担場所を見に行くよう心掛けましょう。

2 教室の管理者として、こんなところに気を配ろう

- 子供の視点に立って、安全への配慮をする。
※つまずきそうなコード、とびだした釘、ひび割れたガラス等、危険な状況を放置しないようにしましょう。
- 適切な照明やこまめな換気等、教室環境を衛生的にし、健康に配慮する。
- 掲示物や連絡黒板は見やすく整理し、必要な情報が確実に伝わるようにする。
- 視覚や音による刺激を最小限に抑え、学習に集中できる環境を整える。
※教室の前面に貼る掲示物は、学級目標や学級のルール等、必要最小限にしましょう。また、机、いすの移動に伴う防音等にも配慮しましょう。

ワンポイントアドバイス

学級（学年）通信、保健便り、行事ごとの感想文、写真、作品等の掲示物は人権に配慮があること、定期的に更新されていることが大切です。掲示物を読む習慣が身に付いたり、教室の雰囲気が変わったりして、子どもたちのコミュニケーションのきっかけにもなります。

も もっとある 子供のよさを 引きだそう

教師は常に子供たちを受け止め、子供たちの可能性を信じて応援し、褒めて自信へつなげていくことが大切です。どうしてもマイナス面ばかりが目についてしまうときにこそ、一人一人のよさに目を向けましょう。

大切にしたいこと

- 一人一人の子供を大切にするというゆるぎない信念をもち、どの子も同じようにあたたかく受け止め、言葉をかけましょう。
- 子供が成功感や達成感を味わったり、周りの人に認められたりできるような活動を多く取り入れるとともに、十分に褒めて、しっかりと見守り支えていきましょう。
- 子供が自分らしさを発揮してのびのびと活動し、自らの生き方や将来について、夢や目的意識をもてるような指導に努めましょう。

実践のヒント

1 自分のよさを実感し、自分を肯定的に受け止められる機会をつくろう

- 朝の会や帰りの会等で、自分を見つめたり、友達のよいところを伝え合ったりする活動を取り入れる。
- 子供の言葉や行動を意味付けたり、価値付けたりしながら、しっかりと褒める。
※「～がいいね。」「～をがんばっているね。」のように、具体的に褒めたり励ましたりしましょう。
- 答えの間違いや活動の失敗等も、肯定的に受け止め、生かそうとする。
※「成功すること以上に、失敗からたくさんのが学べるよ。次はきっとできるよ。」

2 自分が周りの人たちに役立っていると、実感できるようにしよう

- 自分の役割に責任をもたせるとともに、その可能性を広げる。
※自己決定し、成功体験を重ねる中で、自己肯定感が高まります。
- 異年齢活動や地域社会での活動等、自己有用感を味わうことができる活動を取り入れる。
※学校はもちろん、社会とのつながりを意識できるようにしましょう。

3 一人一人を大切にする教師の姿勢を示そう

- 子供から話しかけられたとき、活動をいったん止めて、目を見て、体を向けて対応する。
※子供の名前を呼ぶときは、「～さん」を付けましょう。
- 欠席者の机に荷物を置かせない。配付物をそのままにしない。
※欠席している子供も大切にされているか、周りの子供たちは見てています。
- 子供が相談しやすい雰囲気をつくる。
※いろいろな話題で、子供たちと楽しい会話ができるように心掛けましょう。
※忙しい毎日だからこそ、子供と一緒に過ごす時間を確保しましょう。

ワンポイントアドバイス

ポジティブ行動支援を実践しましょう。あたたかく子供たちを見守ることができる柔軟で力強い教職員集団となり、子供たちにも教職員にも笑顔が広がります。

(P 9 学級経営 豆知識 【ポジティブ行動支援とは?】)

う 受け止めて 家庭の思い 地域の願い

保護者からの相談や地域からの要望は、よりよい信頼関係を築くチャンスです。必要以上に身構えるのではなく、落ち着いて誠実にその思いや願いを受け止めましょう。

大切にしたいこと

- 教師一人一人が学校の顔であるという自覚をしっかりともって、丁寧に電話や来校時の応対をしましょう。
- 保護者や地域の方の立場に立って、その声にしっかりと耳を傾け、保護者の思いや地域の願い、要望の真意を捉えましょう。

実践のヒント

1 安心感を与える応対を心掛けよう（電話、面談、家庭訪問等）

- 第一印象を大切にする。
 - ※明るく丁寧な挨拶、笑顔、清潔感のある服装や髪型等にも心を配りましょう。
- 相手への「ねぎらい」と「感謝」を伝える。
 - ※「お忙しい中、お電話をいただきありがとうございます。」
- しっかりと話を聞く、保護者や地域の方の気持ちに寄り添う。
 - ※急いで終わらせることや、話を途中でさえぎったりすることがないようにしましょう。
 - ※うなずいたり、あいづちをうつたりする等、話しやすい雰囲気をつくりましょう。
 - ※会議等の予定がある場合は、あらかじめ時間の目安を保護者に伝えておきましょう。
 - ※あいまいな表現、感情を刺激したり、否定したりする表現にならないよう気を付けましょう。
 - ※他の家庭や同僚への批判には同調しない。また、個人情報を漏らさないようにしましょう。
- 保護者や地域の方が安心できるように終わり方にも配慮する。
 - ※「今後に生かしてまいります。」「ご指摘いただきありがとうございました。」

(P 9 学級経営 豆知識 【電話の応対のワンポイント】)

2 保護者や地域の方と積極的に関わろう

- 日常的に保護者や地域の方とコミュニケーションを図るよう工夫をする。
- 学級目標や方針、日頃の取組の様子を学級（学年）通信、Webサイト等で積極的に発信する。
- 地域の行事に参加する等、地域をよく知ることができるよう心掛ける。

3 日常生活の中でちょっとした配慮を大切に！

- 学校でトラブルがあったときだけでなく、よいことがあったときにこそ、すぐ保護者に電話を入れる。
- 子供が欠席したら、電話を入れ、様子を聞くとともに連絡事項を伝える。
- ※欠席連絡がなく子供が登校していないときは、即電話を入れましょう。

ワンポイントアドバイス

保護者や地域の方との応対の中で、管理職への報告・連絡・相談が必要な内容については、個人的な回答を控え、即答しないようにしましょう。

学級経営 豆知識

【電話応対のワンポイント】

- 3回以上ベルがなったときは、「お待たせしました」という一言を添えましょう。
- 受話器を取った後は、明るくはつきりとした声で応対しましょう。
- 教職員や保護者の電話番号は教えてはいけません。
- 自分の職場の同僚には敬語は使いません。
- 伝言がある場合には、復唱しながらメモを取り、時刻と電話を受けた自分の名前も書いておきましょう。後で、本人への声かけをしておきましょう。
- 受話器を手で押さえても、相手に聞こえることがあります。必ず保留ボタンを押しましょう。
- 電話を切るときは、相手が受話器を置いてから切るようにしましょう。
- ※緊急時を除いて、勤務中の私的な電話は控えましょう。

【ポジティブ行動支援（P B S）とは？】

徳島県では、子供たちのよい行動に注目し、その行動を積極的に褒めたり、認めたりすることを通して、子供たちの自尊感情を高め、主体性や社会性を育んでいくという「ポジティブ行動支援（Positive Behavior Support）」を推進しています。P B Sとは、教職員の「子供にこんな姿になってほしい」、子供自身の「こんな姿になりたい」を実現するための枠組みです。私たち教職員はどうしても子供たちの問題行動に注目し、これを減らすことに注力しがちですが、P B Sでは、「望ましい行動が増えれば、問題行動が自然に減っていく」と考えます。望ましい行動を増やすという視点で子供たちの行動を観察し、子供たちの望ましい行動を伸ばしていきましょう。

子供たちの望ましい行動を伸ばしていくためには、「望ましい行動を引き出すためのきっかけ・状況が整っていること」「望ましい行動が起きた後に、子供自身にとって好ましい結果があること」という仕掛けづくりがとても大切です。これらの考え方を取り入れた各校のP B Sの実践について、下の二次元コードから、ぜひ動画を視聴してください！

ポジティブ行動支援(PBS)では



望ましい行動を引き出し 子どもの成功体験に繋げる



PBS_PR 動画